

三和中学校同総会東京支部

三和中学同窓会 東京支部長 渡辺敏夫

昭和三十年十月に「里五十公野村(さといぎみのむら)」、「上杉村(うえすぎむら)」、「美守村(みだもりむら)」の三ヶ村が合併して三和村が誕生しました。昨年十二月に「五十周年記念式典」が盛大に執り行われ、長年に亘って村に貢献された方々の表賞式があり、その後引き続き「閉村式」が華やかにそして寂しさに満ちた思いの中で執り行われました。新しい旅立ちを信じて全員で「三和村」に別れを告げました。

豊かな土地から収穫されるお米や農作物は昔も今も変わらぬ恵みを与えてくれております。春の田植えや秋の稲刈りは十八歳まで過ごした四五十年前とは大きく変化しましたが、夏は何故か今も当時とあまり変わっていない気がします。茄子、西瓜、枝豆、とうもろこし等々、食

するのを楽しみに今年の夏も多くの方が帰省されたのではないのでしょうか。

昭和四十七年四月に里公(さとこう)中学校・「上美(じょうび)中学校」が統合して三和中学校が誕生しました。それ以前は二つの中学校卒業生は別々に集い、相互には連携はありませんでしたが、統合を機会に同窓会が結成され東京支部も発足しました。

当時は二つの中学校間では運動会・野球・バレーボール・文化祭等で交流はありましたが、同学年と言われてもほとんど顔なじみがありませんでしたので、立ち上げ時の役員の方々は大変ご苦労されたことと思われ、三十年以上継続できているのも諸先輩の努力のお陰と感謝しております。

同窓会東京支部は東京・埼玉・千葉・神

奈川で約七百名弱の会員名簿があり、その内二百名前後の方々からの会費(二年で一、〇〇〇円)で運営しております。

主な行事は二年に一度の「支部総会」の開催で、来年が十七回を数えます。偶数年での総会となり、オリンピックとワールドサッカーの開かれる年に当たるわけです。

当日は村から村長・議長・同窓会本部・中学校長・恩師のご来賓を迎えて、村の情報や後輩達の活動状況等を詳しく、懇親会では楽しく会員と語り三時間も直ぐに過ぎてしまいます。ここ五回程は会場を「新潟県人会館・上野」を利用して、六月第二土曜日と定着しつつあります。以前は八十名前後でしたが最近五十名がやつの状態です。

どうしたら二年に一度の総会に出て見ようと思っただけなのか、役員で知恵を絞って考えてもなかなか上手くいきません。イベントとしてカラオケ・抽選会(雪中梅・こしひかり等)が中心で、抽選会も出来るだけ全員に行き渡るようにと思っ、役員の仕事関係からも品物をだして頂いております。最後は全員で「高田の四季」の合唱でお開きとなります。

今後の支部の課題は、いかにして会員数の増加を図るか、どうしたら総会出席

者の一定数の確保できるか、どんな企画なら楽しんでもらえるか、予算をもう少し多く取れないか等々あります。また会員の高年齢が進み会員数が毎年減少しており、歯止めをかけるべく昨年からは幹事制度を取り入れました。また成果は出ていませんが根気よく継続することが大事かと信じております。

第一回三和中学校卒業生も五十歳近くになってきておりますが、現状では名簿の割程度しか有りませんが、今後五年、十年と考えますと「三和中学校卒業生」の比率を如何に高めるかに尽きることでしょう。

この会を四十年、五十年と続けることに意義があり又支部長以下十六名の役員責任と認識しております。

